



駒本の力

駒本小学校(家)

教育活動紹介便り

校長 田中 克昌

NO. 21

平成28年3月2日

「どの子も伸ばす、駒本の教育」10

校長 田中 克昌

人にはそれぞれ個性や特徴があります。もちろん得意なことも苦手なこともあります。子どものうちに、自分の苦手なことを意識して、克服する努力やコントロールする力を身に付けることはとても大切です。私は小学校3年生の時の通知表に担任の先生から「落ち着きがない」とはっきり書かれました。今でも落ち着きがありません。そんな自分の特徴を理解して、できるだけ自分を俯瞰して見るようにしています。「おいおい、今、自分は落ち着きがないぞ、深呼吸して、落ち着かないといけないぞ、ソワソワしていると周りから見て、あの人は落ち着きがない人だと思われるぞ、ここはじっと我慢で落ち着かないといけないぞ」と、コントロールするようにしています。もっともこの落ち着きのなさは、精神的な弱さから来るもので、緊張や不安などのストレス状態になるとそのような行動がでてしまうようです。なぜこんなお話をするのかというと、自己の特徴を理解すること、自己理解が大切であり、その上で、克服したりコントロールする方法を身に付けていくことが大切であるということです。

【個に応じた支援について】【2. 指示を聞いて行動することが苦手】

次のような特徴が観られたら、指示を聞いて行動することが苦手と考えています。

- ② 先生の指示を集中して聞くことが苦手
- ② 先生の指示の後、関係ないことをしてしまう
- ③ 今やっていることがなかなかやめられない
- ④ 何をしたらよいのか、どうしたらいいのか困っている

〔支援方法〕

聴覚優位ではなく視覚優位の児童は数多くいます。そのために、ユニバーサルデザイン化として視覚化を積極的に取り入れています。さらに、先生の話術の力を高めることも大切にしています。

- ① 指示や活動内容を板書に残し、視覚化する。
できるだけ音声情報と視覚情報の両方を示します。
- ② 手がかりとして、教員が見本を示したり、見本となる人を隣の座席にする。
見本や手本を見せると、活動のイメージが分かり活動しやすくなります。
- ③ 一回に一つの指示にし、端的で分かりやすい指示を出す。
複数の指示を同時に出されたり、長く説明されては、理解が難しくなります。
- ④ ICT機器を活用して分かりやすい指示を出す。
ICT機器の利用は、今後とても重要になってきます。
- ⑤ 個別に手順カードを渡し、確認できるようにする。
ワークシートなどで手順カードを渡しておく、とても便利です。
- ⑥ 目線を合わせ、呼吸を合わせて話をする
実は、音声指示ではこれがとても大切です。

温かな 風がそよぐか 校門前

子どもたちに見る素直な可愛らしさ

3月1日、朝から冷たい風が吹いています。しかし、心には温かな風がそよぎました。いつもの通り、7時45分から校門前を出て挨拶をしていると、3月からは1年生が挨拶当番です。二人の男の子が挨拶当番をしています。そこに、続々と1年生が登校してきました。自主的に挨拶当番に加わる1年生。その数約10人ほどになりました。みんな本当に素敵でかわいらしい笑顔で、登校してくる子どもたちに元気な挨拶をしてくれました。冷たい風が吹く校門前で、本当に心に温かな風がそよぎました。また、出席ボードを職員室に持参し、副校長先生と握手と挨拶を交わしながら、クラスの出席状況を伝えに来る子どもたちの素直な可愛らしさ、駒本小の子どもたちの成長は、このように随所に現れています。

さらに、先日の土曜授業公開で行った、「6年生を送る会」、送られる6年生のうれしそうなお笑顔と共に、全校で6年生の卒業をお祝いし、今までお世話してくれた6年生への感謝の気持ちが、体育館中に溢れていました。特に、5年生は、確実に、6年生の残してくれた背中から多くのことを学び、来年度の最高学年としての自覚を高めています。「愛と熱と力の駒本」は確実に歩を進めています。

かけた恩は水に流し、受けた恩は石に刻み、次の人に返せ

今週の4日には「謝恩会」が行われます。今度は、卒業する6年生が保護者と共に、お世話になった教職員やここまで育ててくれた保護者に対して、受けた恩に感謝するという素敵な会です。私の大切にしている言葉に、「かけた恩は水に流し、受けた恩は石に刻み、次の人に返せ」というものがあります。自分がお世話したり育てたり面倒見たことに対しては、見返りを求めません。ただし、人から受けた恩は石に刻むほどのつもりで心にとどめることが大切です。その受けた恩は、恩をかけてくれた人に返すこともありますが、次の人に恩をかけていくことが大切です。保護者や家族から受けた恩は、自分が親になったり、家族をもったときに返せば良いのではないのでしょうか。私たち教員の世界でも、先輩や管理職の先生からご指導受けたご恩は、後輩や部下に返していくことを大切にしています。今日、6年生の授業を見ていたら、百歳を越えてもなお現役のお医者様である日野原さんの「いのち」という詩を学習していました。命とは、自分に与えられた時間であり、その命である時間を人のために使おう、というメッセージでした。6年生の子どもたちが未来に向かって、自分に与えられた命の時間を、ぜひ人様のお役に立つように使ってくれることを心から願っています。6年生は、もうすぐ卒業です。全校、全教職員をあげて子どもたちの卒業をお祝いしていきます。